

庭野平和財団 活動助成 報告書

申請事業名称: インドのコットン産業における児童労働について考えアクションを促すワークショップ・教材の開発

コード: 13-A-222 実施団体: 特定非営利活動法人 ACE

1. 活動の目的

私たちが生活の中で身近に使っているタオルや衣服などのコットン製品は、消費者の手に届くまでに、主に海外でコットンの種子や綿の栽培から、製糸、生地づくり、縫製などのさまざまな過程があります。そして世界最大のコットン耕地面積を持ち、コットン生産量世界第1位を誇る国インドでは、そのコットン畑で多くの子どもたちが長時間、低賃金といった劣悪な労働条件で働かされ、就学できずにいます。

当団体は、2010年からインド南部のコットン生産地域で、子どもを労働から守り教育を受けられることを目指して「ピース・インド」プロジェクトを実施し、住民参加による子どもの就学の徹底や貧困家庭の収入向上などに取り組んでいます。また日本ではコットン関連企業や消費者を対象に、「コットンサミット」やその他イベント等を通じて、コットン産業における児童労働の現状や改善策を呼びかける啓発活動や、衣料企業のサプライチェーンで児童労働がないよう働きかけるCSRコンサルティングなどを行っています。

これらの活動を通して、日本では企業によるCSRを始め、環境や人権に配慮したエシカルなビジネスや消費への関心が高まってきていることが分かりました。しかし当団体ではこれまで、コットン産業での児童労働の問題について分かりやすく伝え、企業や消費者が、自ら気づき、考え、行動できるよう働きかけるためのまとまったツールがありません。ACEではカカオの児童労働問題に焦点をあてたワークショップ&教材「おいしいチョコレートの真実」があり、この存在がこの問題自体を伝える役割を果たしていることから、同様の役割の果たせる教材制作が必要と考えています。

そのため、そのようなツールを作成し、普及することで、コットンという身近なモノを通して、児童労働の問題について消費者、企業の意識を高め、児童労働のない世界、子どもにやさしい平和な社会づくりを推進したいと考えています。

2. 活動の内容と方法(当初計画)

1)ワークショップの内容の検討

1)子ども、2)消費者、3)企業向け の3つのターゲットを想定して、同じツールを使って、それぞれのターゲットに合わせた3つのパターンの参加型ワークショップを検討し、実際に3つのパタ

ーンを試行し、最終決定します。(2013年11月～2月)

2) ツールの追加情報の収集(インド現地)

ワークショップ内容が固まった時点で、インド現地で、ピース・インドプロジェクトの担当スタッフの出張に同行する形でスタッフを派遣し、教材制作に必要な映像や情報を入手します。(2014年1月～2月)

3) ワorkshopで利用するツールの制作

①DVD ②ブックレット ③その他ツール(パネルや写真キット)を制作します。ワークショップの構成にあわせ、①～③それぞれの機能を定め、児童労働の現実や私たちの生活とのつながりを示すサプライチェーンの図等、必要な情報を確定させ、制作します。制作は ACE スタッフが作成する原案や原稿を元に、外部のデザイナーに一括してデザインからレイアウトを委託します。映像制作は外部に委託し、内容・構成はスタッフが考案、素材も用意します。(2013年12月～2014年4月)

4) ワorkshopの普及と改善

チラシの作成・配布や、イベントでのお披露目、プレスリリース等を通じて、新たなワークショップを開発したことを発表し、講師派遣を依頼してもらうよう働きかけます。ファシリテーター養成講座を開催し、このワークショップのファシリテーターが出来る人を養成します。これに地方からも参加できるように、一部交通費を支給します。実施を重ね、実施方法について改善を行います。(2014年5月～2014年10月)

3. 活動の実施経過

上記の計画に沿って、以下1)～4)それぞれの実施経過について報告する。

1) ワorkshopの内容の検討

①ミーティングの開催

ACE職員(成田、岩附、植木、召田<途中まで>)、インターン(宇留賀、河尾<途中まで>)、デザイナー(近藤萌、適宜)でコットン教材チームを作り、ミーティングを開催した。

第1回 2013年11月20日

議題: 企画の趣旨・背景・なぜACEが教材を製作するのか、実施内容とスケジュールの共有、役割分担

第2回 2013年12月17日

議題: ターゲット別ワークショップのたたき台提案(子ども、消費者むけ)、おばた中学校の家庭科の授業で行ったオーガニックコットンの出前授業の報告

第3回 2013年12月25日

議題: ワorkshopの大まかな流れ(つかみ、本体、まとめ)、各パートの具体的な手法について

第4回 2014年2月18日

議題:ワークショップの基本構成案をもとに、議論、基本構成の決定

第5回 2014年3月10日

議題:ワークショップ時間、対象、人数、構成の決定

(対象年齢は中学生以上、人数は10名以上、構成は ●つかみ(20分)→パネルの並び替え⇒映像で確認 ●本体(45分)→前提条件を与えたロールプレイ(2つのシナリオ・問題の体感)⇒映像(CLの知識などを確認) ●まとめ(25分)などを決定)

第6回 2014年3月24日

議題:ワークショップの内容の改善部分についての決定と5月10日の準備に向けての取組み

第7回 2014年4月21日

議題:ワークショップの中の構成要素の実施内容詳細について決定(並べ替えパズル、ロールプレイのセリフなど)

第8回 2014年4月28日

議題:前回のMTGを受けて各自修正した内容を共有、5月10日のエシカルファッションカレッジでの試験実施に向けて、当日の流れ・役割分担を確認

第9回 2014年5月19日

議題:エシカルファッションカレッジでの試験実施を受けて、アンケートからのフィードバックを確認、時間配分や内容の修正点を議論。次の試験的ワークショップに向けた準備の確認。

第10回 2014年6月16日

議題:製作物の確認、今後のスケジュール、実施予定の確認と修正点の確認

第11回 2014年7月24日

議題:制作物(ガイドブック)の進捗確認と、8月に予定している企業向け・教員向けのワークショップ実施の準備と検討

第12回 2014年8月28日

議題:8月に行った2回の試験実施の振り返り、ガイドブックの構成の検討、今後のスケジュールと役割分担

第13回 2014年11月6日

議題:ワークショップタイトル、DVD内容、ガイドブックの内容について

②ワークショップの試験的試行

完成まで、計6回の実施を行った。

第1回 2014年5月10日（一般消費者向け、成田、宇留賀、岩附、近藤）
エシカルファッションカレッジにて、約30名の参加者を得て試験的な実施を行った。
アンケートをとり、そこでのフィードバックを教材の内容修正に活かした。

第2回 2014年8月6日（企業向け、岩附、成田、植木、白木、宇留賀）
ACEが企画している企業向け連続セミナーのひとつとして実施。対象は一般企業&興和社員（24人=6人×4グループ）興和原宿事務所1F展示スペースを借りて、実施。

第3回 2014年8月9日（一般消費者、教員向け、宇留賀、召田）
開発教育協会（DEAR）の主催する全国研究者集会（JICA地球広場）にて、実施。
DEARのこのイベントには、全国から小学校～高校の先生が集い、授業内での開発教育をいかに行うかの情報交換の場になっている。そのような実施経験の豊富な方々へ実施し、実際に子ども向けを行うにあたってのアンケートをとり、フィードバックをもらった。

第4回 2014年9月2日（中学生向け、宇留賀、召田、成田）
東大教育学部附属中学校にて中学生向けにワークショップを実施。

第5回 2014年10月1日（召田）
鎌倉女子大学でワークショップを実施。

第6回 2015年1月25日（成田）
名古屋のフェアトレード名古屋ネットワークFTNNにてワークショップを実施。

実施風景：



<p>中学校でのワークショップの様子</p>	<p>生徒自身に考えさせるワークになっています</p>
	
<p>参加者はロールプレイで、登場人物になりきってセリフを読んだり、発言したりします。</p>	<p>消費者教育の観点からも、熱心に聞いてくださる方々が多くいます。</p>

2) ツールの追加情報収集

2014年11月にインドにスタッフ植木が渡航し、現地のプロジェクト視察、またサプライチェーンにあたる現場などを視察して、写真を撮影。そこでとった写真や映像は製作物で活用した。

3) ワークショップで利用するツールの制作

① DVD


DVDの製作は、全体の流れやセリフなどをチームメンバーで作成するところから始まった。だいたいの大枠を決め、セリフを分担して決めながら、各セッションごとに必要な写真や動画をピックアップする作業をしたが、現地の映像をピックアップするのにかなり時間を要した。また、編集を依頼したライズビデオとデータのやりとりで行き違いがあり、古いデータを使って編集されてしまったため、やり直しに時間を要した。また、内容を詰め込みすぎて15分近い長さになってしまったため、授業で使いづらくなる可能性があり、大幅に内容をカットし、編集をやり直した。そのため、2014年12月の完成を目指し、12月に編集作業に立ち会うなどして調整を進めていたが、結局編集作業を行う会社側の都合(編集室が空いていない)もあり、予定より大幅に遅れて2015年2月に完成となった。

このTシャツはどこからくるの？ -ファッションの裏側にある児童労働の事実- ワークショップ映像DVD

□ ユニット1 並べ替えパズル 理解しよう！コットンが服になるまでのプロセス
・「並べ替えパズルの答え合わせ&クイズ」

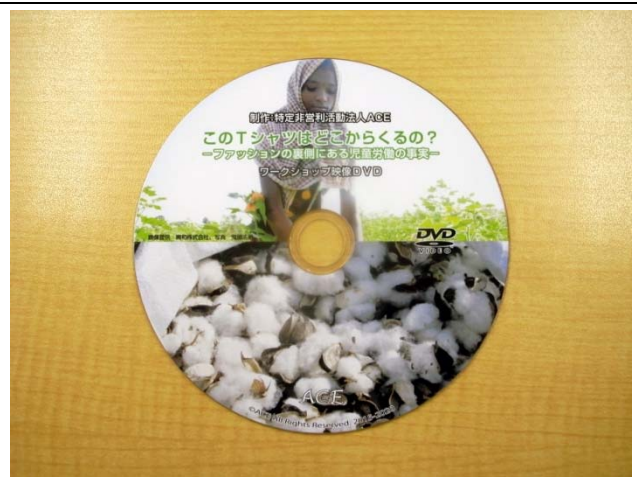
□ ユニット3 映像 学ぼう！コットン産業の児童労働の現状と解決へのヒント(PLAY ALL)

- ・パート1 世界のコットン生産とインドでの課題
- ・パート2 児童労働とその原因
- ・パート3 児童労働をなくすためには(インド)
- ・パート4 コットン産業の児童労働をなくすために、私たちにできること



ACE

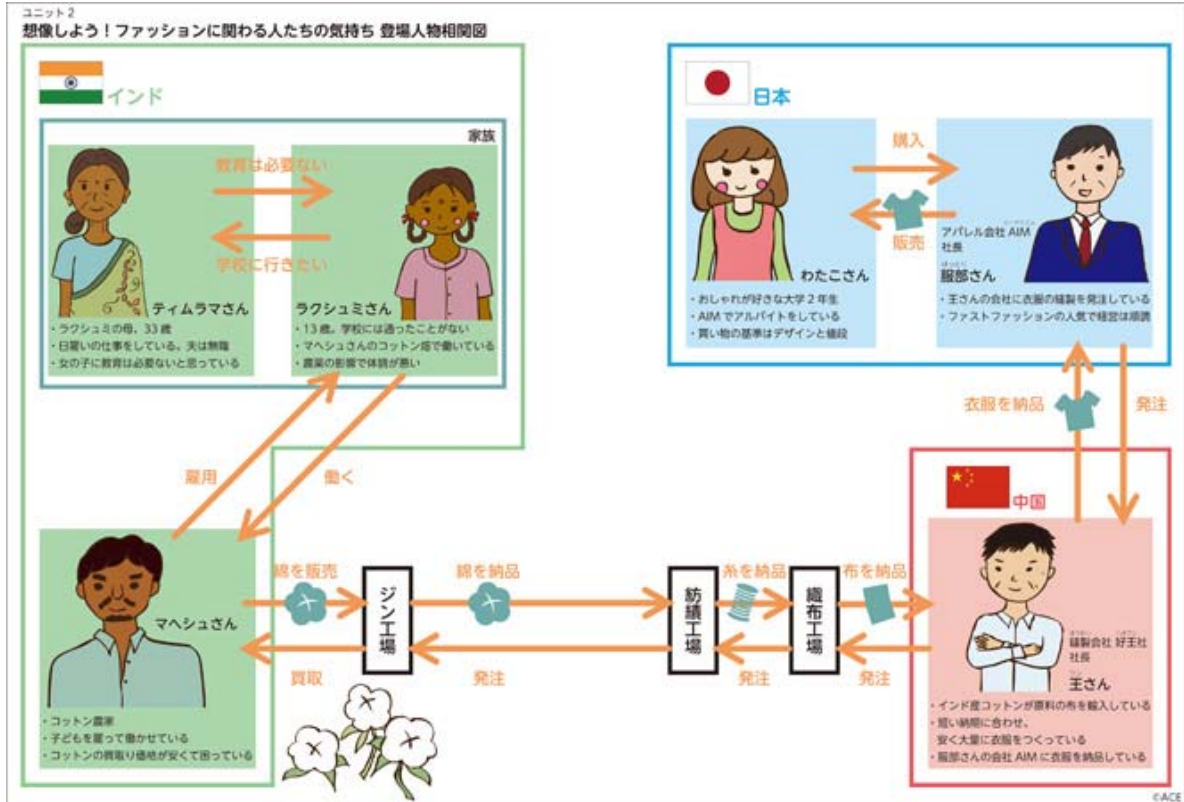
DVDのメニュー画面



完成したDVD

②ブックレット(ガイドブック)について

ブックレットは、「ガイドブック」という名称に変更した。機能として1)学校の先生などがワークショップを実施する際に利用できるガイド2)背景情報を含む情報提供 3)ワークショップで実際に使うツール提供 の3つがある。全体で56ページとなった。執筆はチームメンバーで分担して行い、レイアウト・デザインは近藤さんに依頼をした。原稿執筆、校正、修正などに膨大な時間がかかったが、2014年12月末にほぼ中身のデータがそろい、映像の時間数などの部分を加筆すれば入稿できる状態になった。③その他ツールは、②のガイドブックにすべて含める形で製作したため、作らずに済んだ。



ガイドブックに含まれている、ロールプレイに出てくる登場人物の相関図。



ワークブックの中には、ワークショップで使うカードが入っている。切り取り、コピーをして使うことが出来るようになっている。右下の小さいカードは、サプライチェーンの流れを理解するために導入部分で使用する、「並べ替えパズル」のカード。

4. 活動の成果

①「このTシャツはどこからくるの？」教材の完成

想定より時間がかかってしまったが、教材のフルセットが完成した。

DVDは200枚、ガイドブック200冊、それを入れるケースを200セット購入し、インターン等がそれぞれを組む作業行い、キットが完成した。

②消費者教育教材資料表彰 優秀賞の受賞

ACE オリジナル教材「この T シャツはどこからくるの?」が、平成 26 年度「消費者教育教材資料表彰」の優秀賞を受賞した。

○公式発表

<http://www.consumer-education.jp/activity/contest.html>

○受賞一覧

http://www.consumer-education.jp/contest/contest_result_h26.html

視聴覚資料として、優秀賞に選ばれ、2015年8月～2016年3月の期間、教員による教材評価が行われ、教材を学校で活用したアンケートをもとに、最優秀賞が選ばれる予定。

③販売開始と普及

2015年3月から販売を開始したところ、8月末まででフルセット66部、DVD1枚の販売があった。これは、2015年4月から地球環境基金の助成を受けて、本助成で完了できなかった4の普及の部分のカバーできるようになったことが大きい。教員向けセミナーを7月に実施し、約30名の参加を得て、そこでの販売だけでなく、そのセミナーの告知を見て教材購入を申し込んでくれた先生方もいた。

このように、教材の完成により、ACEにとってはインドの児童労働の実態を伝えるツールが出来たことは大きな成果である。この普及を通じ、現地の状況や児童労働の課題を先生などが学校で知らせてくれるようになったことが、児童労働撤廃に向けた意識啓発にとっても前進となった。

5. 今後の課題

この教材が完成しても、存在を知られないと普及できないため、今後どのようにこの教材の存在を知ってもらうかが重要になってくる。地球環境基金の助成は3年間の継続を見込んでいるため、その間にできる限り多くの機会にこの教材の普及を行いたい。そのため、増刷する予定もしている。消費者教育教材資料表彰の講評では、価格が高いという指摘を受けている。これまでこの教材完成するまでにかけた労力(人件費)を考えれば、まだそのコストは回復できていないが、今後の普及にあたってどれだけ価格面でもアクセスしやすいものにしていけるか、は課題である。

現在講演依頼の中には消費者教育の観点からのものも増加しており、そのような場で講演し、このワークショップを出来る人を増やすことが重要である。しかし、ACEの人員も限られているため、すべての依頼に十分に対応できるようにするためには、ACE内部での講師派遣に対応できる人材の育成・増加も必要となってくる。

この度の助成による教材開発は、大変な労力がかかりましたが、ACEの児童労働の啓発にとって大きなひとつのステップとなりました。助成いただきまして、誠にありがとうございました。